

氏名	堀 見 忠 司
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1017 号
学位授与の日付	昭和53年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	腎移植患者の Granulocyte Cytotoxicity に関する研究
論文審査委員	教授 寺本 滋 教授 大森弘之 教授 大藤 眞

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

腎移植の臨床において、通常行われている血液型およびHLA適合性試験やMLCなどの組織適合性の良否は、移植腎の予後を左右する重要な問題であるが、術前に受けた輸血等で、移植患者が感作されるために出現する既存抗体も、移植腎の予後を、強く反映するものである。既存抗体と移植腎の予後との関係は、従来、lymphocyte cytotoxicity test として報告され、術前に腎提供者のリンパ球に対して既存抗体が証明される場合は、移植後24時間以内に急激にその機能を廃絶する超急性拒絶反応あるいは促進性拒絶反応が惹起されるものとして、腎移植に際し、禁忌とされている。そこで、本論文では、HLA系と抗原系を異にする顆粒球系に注目し、granulocyte cytotoxicity test を用いて granulocyte cytotoxin を検索し、腎移植の術前・術後を経日的に追求し、術前輸血、HLA 適合性との相関性、更に、急性拒絶反応を含めて移植腎機能との関連性等について研究した結果、granulocyte cytotoxin の有無は、移植腎の予後に、重要な関係があることを明らかにした。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は腎移植患者血中の殺顆粒球抗体 (granulocyte cytotoxicity)に関する臨床的研究であり、本抗体の有無は移植腎の予後に重要な関係があることを明らかにしたものであって、この分野における重大な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。